

平成 30 年度
大阪ペピイ動物看護専門学校
学校関係者評価報告書

平成 31 年 3 月

学校法人宮崎学園
大阪ペピイ動物看護専門学校

委員氏名	所 属	備 考
澄田 新(委員長)	大阪ペピイ動物看護専門学校 校長	学校長
会亀 昭夫	全日本獣医師協同組合 理事長	獣医療関係者
小西 恭一	あぶの動物病院 院長	獣医療関係者
光山 智行	今里動物病院 院長	獣医療関係者
西澤 亮治	特定非営利活動法人 動物愛護社会 化推進協会 事務局長	関連分野企業等 関係者
平尾 泰久	新日本カレンダー株式会社 取締役	関連分野企業等 関係者
塩路 春江	大阪ペピイ動物看護専門学校 在校生 保護者	保護者
上川 真緒	大阪ペピイ動物看護専門学校 卒業生	卒業生
青木 理子	大阪ペピイ動物看護専門学校 副校長	その他校長委嘱者
宮崎 安弘	大阪ペピイ動物看護専門学校 事務局長代行	その他校長委嘱者
深田 恒夫	大阪ペピイ動物看護専門学校 学術顧問	その他校長委嘱者
羽山 浩規	大阪ペピイ動物看護専門学校 事務局	その他校長委嘱者

1. 学校の教育目標

評価者意見等

- ◆ 「慮る」すばらしい理念であるが今のペピイでは、はき違えたり忘れられたりしがちである。動物も人間と共同生活をするうえで、我慢したり自我を抑えたりすることが必要である。しかし、「はき違えた慮り」は、動物が抑えなければならない自我からくる「要求」を際限なく飲んでしまうことに繋がり、動物自身が自分をコントロールできず人間との共同生活に支障をきたす問題行動満載の動物を作り出してしまう。もちろん「慮る心」を忘れることは論外である。
- ◆ 当校長い歴史の中のわずか4年間、学校運営のごく一部を垣間見ることができ、私にとっては今後ありそうもない有意なじかんでした。理念や教育目標に再試、真摯に取り組む教職員皆様の姿勢は十分伝わるものでした。また当校が続ける地域や社会への貢献活動は、在校生にとっての大きな魅力であり誇り、そして今後入学意思のある方々の強い憧れであると信じます。特に気負うことなくこのまま進めていって欲しいと思います。

2. 平成30年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

評価者意見等

- ◆ いろいろな形で教職員研修がなされているようであるが、可能であれば臨床現場での研修を実施してほしい。就職率100%を目指すのであれば、1～3年以内の離・退職率を減らさなければならない。学生の獲得には学科の新設や改組も一法かもしれないが、ペピイの強みは他では見られない実習の充実を図ってきたことだと思う。コアカリキュラム導入以来、学生獲得の一翼を担う実習の密度が薄まったように感じるので一考を望みたい。
- ◆ 2-2 PHP内施設での教職員並びに学生さんの方々は、具体的にどのような活動をされたのでしょうか。
- ◆ 2-3 “離脱者8%以下”の数値はそもそもどこからくるのでしょうか。
- ◆ 2-6 入学希望者の多さには目を見張るものがあります。PHP、努力が報われましたね。
- ◆ 2-7 昨年も同総括でした。何が問題となるのでしょうか。

3. 平成 31 年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

評価者意見等

- ◆ 教員同士で、得た知識や技術を共有できるようなシステムづくりや相互に教え合うようなコミュニケーションの場を設けてほしい。結果として、ペピイの教員の高位平準化を図るべく努力をすべきである。学内就職セミナーに関して、インターン実習時の心構え・行動・態度等についても力を入れれば就職決定率の向上の一助となるのではなかろうか。新入生 160 名確保・学生獲得については、ペピイにしかできない目玉になるようなプランがほしい。

4. 平成 29 年度評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標

- ◆ 学校のリネン・目的・育成人材像が周知され、入学希望者が増加傾向にあるようで喜ばしい。

2 学校運営

- ◆ 管理職・事務方・専任教員・非常勤講師の縦方向も横方向も意思疎通に配慮してほしい。専門職の意見を吸い上げ束ねていける人材の育成に取り組むべきである。分野別の少人数の講師会の開催も提案したい。

3 教育活動

- ◆ 3-8 チームを組んで実施する授業については、チーム内でしっかり意見交換して科目概要の作成を望む。
- ◆ 3-15 飼育犬については対人的な吠えをなくすため、しつけや日頃の接触を特定の人間に限らず、全ての教員が正しく扱えるような知識やスキルを共有するべきである。飼育猫の社会化についても同様に対処できるよう望む。

4 学修成果

- ◆ 4-7 学生による授業評価等に加えて、専任教員全員で意見交換や相互評価も実施してはどうか。

5 学生支援

- ◆ 5-4 学生支援に関してクラス担任の役割が多くの項目で課せられているが負担感はないのだろうか。

6 教育環境

- ◆ 6-3 動物の数はいるようだが、社会化不足で実習に協力的な動物が少ないと聞いているので一考を望む。

7 学生の受入れ募集

- ◆ 募集に関するさまざまな努力がみのり、近年入学者が増加傾向にあるようで喜ばしい限りである。

8 教育の内部質保証システム

- ◆ 8-6 総括で面談を実施するとあるが、個々の意見を十分に吸い上げ、学校運営や学年・クラスまとめ方、均一の授業ができていないのか等々、問題を掘り起こしてほしい。
- ◆ 8-8 教員の専門性について、同種他校の看護学科の衰退の経緯として、経費削減のため現役看護師の非常勤講師を解雇したことが衰退を早め、就職先の不評を買う結果に繋がったかのように聞き及んでいる。一つの案として、専任講師に獣医療現場の空気感を味わうことのできる機会・システムを構築してはどうか。

9 財務

- ◆

10 社会贡献・地域貢献

